

現状のままの未来

- 50年後—3分の2程度の人口規模へ縮小、高齢化率は40%
- 50年後—マイナス成長が定着
- 地域が疲弊化、日本全体の多様さが消失

改革・変革を経た未来

- 50年後—1億人程度の安定した人口構造
- 50年後—実質GDP成長率1.5~2%維持
- 東京一極集中の反転、地域の特色を活かした豊かな成長・発展

《5つの目安》

- 人口・・・年少人口、生産年齢人口
- 経済・・・GDP成長率
- 雇用・・・女性・高齢者就業率
- 地域・・・人口増減等
- 国際・・・プレゼンス

《15の先導的取組》

経済

- 学びの機会の多様化
- 異能、異才の発掘、育成
- 個性的な研究開発、ビジネス化支援
- 女性、高齢者の活躍推進
- 人口急減克服の効果分析

地域社会

- 従来の姿にこだわらない取組推進（集約・活性化、東京圏の少子化対策、介護政策）
- 新しい絆を起点にした取組推進
- ICTを活用したブレクスルー
- 地域の資金循環

人口

- 少子化対策 2020年目途に倍増（社会保障の再構築）
- 地域の実情に応じた拡充
- 妊娠、出産等の知識普及
- 少子化対策の検証・評価
- 企業による子育て、若者支援
- 教育への社会的支援

《3つのコンセプト》

- 「未来」を「人口」に結び付けて描く
- 「つなぐ力」と「開くこと」を重視する
- 「選択肢」を広げる「多様さ」を活かす

年少人口減少が止まる

イノベーションによる生産性の向上

少子化対策倍増

地方創生

脱デフレ 経済再生

慢性的なデフレ 30年来の少子化 地域疲弊

2020年
トレンドの変化

2040年
高齢化率上昇のピーク

2040年
高齢化率上昇ピークアウト

50年後
生産年齢人口比率上昇

50年後
持続的な成長・発展

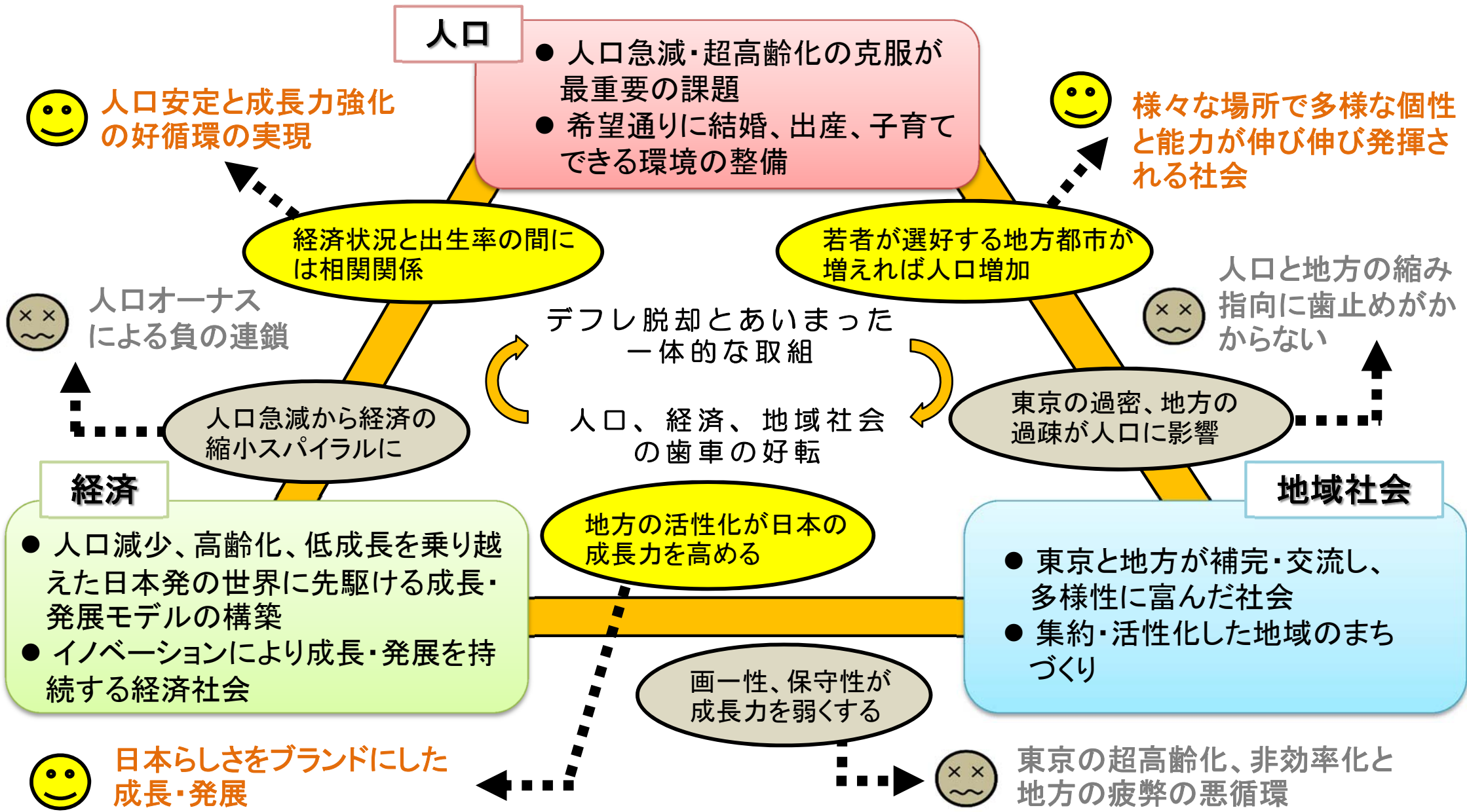
2040年
社会の若返り

2040年
厳しい状況をしのいでぶれない

50年後
次世代へつないでいく

人口、経済、地域社会の課題への一体的取組

人口、経済、地域社会の課題への一体的取組

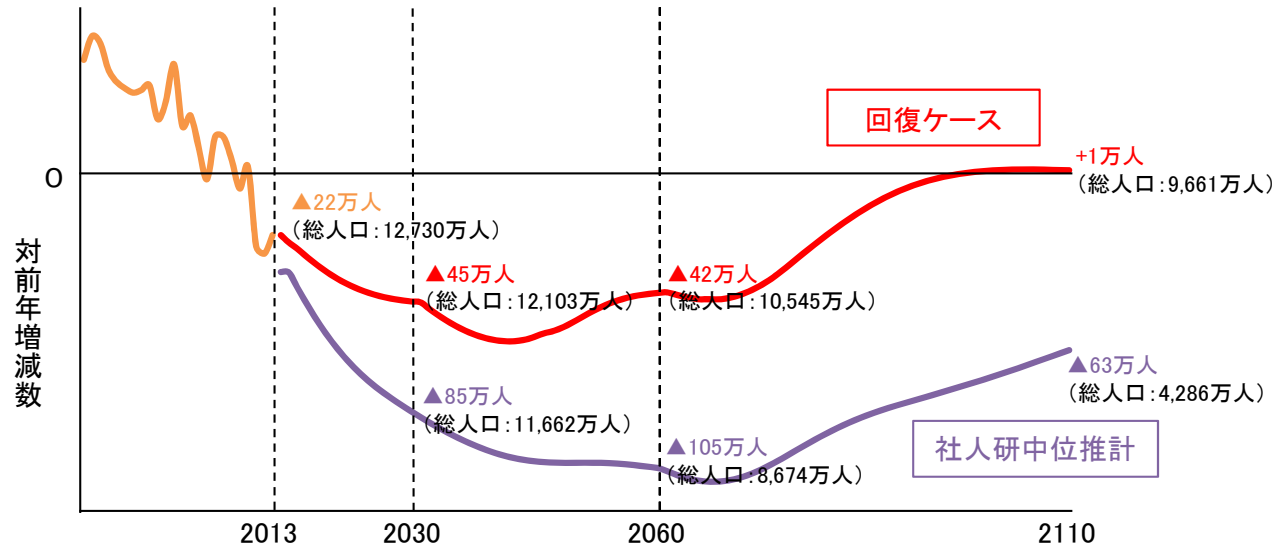


基盤となるのは人材育成 :

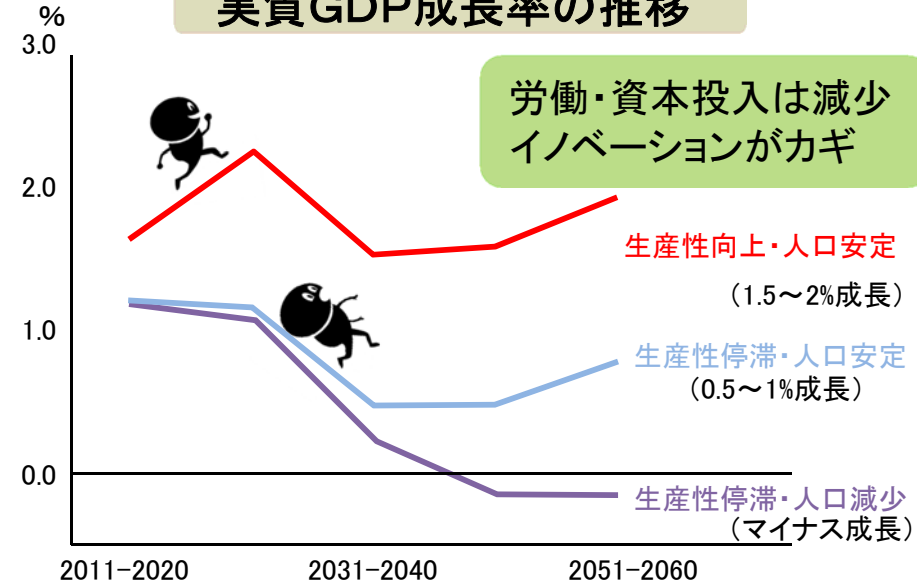
次世代を産み育て、イノベーションを創出し、
地域社会を支えるのは「人」

人口、経済の未来像

総人口の増減の推移



実質GDP成長率の推移



1990年の地域経済

青色の地域: 経済指標47.5未満
赤色の地域: 経済指標60以上

青色: 22.5%
赤色: 14.8%

2010年の地域経済

この10年程の間に
地域間の好不調が
拡大

青色: 38.2%
赤色: 19.5%

50年後の地域経済

この10年程の間の
好不調の拡大を巻
き返すとすると...

青色: 20.0%
赤色: 32.0%

経済が年0.3%改善した場合

- 総人口の増減の推移の回復ケースは、2030年までに合計特殊出生率が2.07に回復した場合の試算値。社人研は、国立社会保障・人口問題研究所の略。
- 実質GDP成長率の推移において、「生産性向上・人口安定」は、総人口が回復ケースで推移し、かつ生産性が1%超向上した場合。「生産性停滞・人口減少」は、総人口が社人研中位推計で推移し、かつ生産性が停滞した場合。
- 地域経済は、市区町村別の工業・商業・農業統計等から算出した合成指数の偏差値。50は過去30年間の全国平均。50年後の地域経済は年0.3%ずつ改善した場合を図示(過去10年間は年0.3%ずつ悪化)

地域社会の未来像

